俊句題林

俳諧発句題林集雑之部

賀　祝之分

閑吏宛
東蓋輯

有難き姿に徳ある

蓬莱や稀の中なる山の雪　来山

呉洋子五十賀

古き事に合うやきたれるみ祝　梅竹

山招氏卍九十の賀

蓬莱茅茨云う所鍛や物好き　仝

百寿の賀

口なまこ一百や種子のまゝ穂分　太祇

玄水七十賀

笑顔霧裏はるゝ友や春の水　呂波

冥白房稲之市茶即興

花交松とゝふ彩り

宗七屋や横の白むゝ小ま川原　言水

鶴賀

輦小支宮ゝや坊家乃妻　曦堂

高砂の図よ

清けなる春の標と竹の春　仝

八十賀

柳柳八十うゝとゝ寿うゝ　仝

玉ハ根ゝ我ゝ人の城と松う　仝

協氏の宮六十の賀

うゝゝん桃ゝ毛毎ゝ新ゝむ　仝

桂裏七十の賀

手代伝ふ親ゝ親ゝ芋ゝ　仝

惟韵ゝ家ゝ業ゝく

花ゝ来ゝくゝ小ハ松のたゝゝゝ　仝

呂波の家業ゝて

野春や白きを花とする垣のしま　蕪村

行たよ居をとゝのふる

約垣衣牧恬さびぬ住居哉　仝

菜子病授ふ二の姿ゝ哉

陰うゝ日枝ゝ二十ゝ化粧ふ　仝

斗文父の八十の賀ゝ半ゝ

稲ゝけゝ風もゝ引ゝ老の松　仝

大曹ゝ病の復ゝ祈ゝ

疫疾や病ゝ祈ゝ祝ふ高野山

ある人乃別業ゝ

仝

雲雀啼ゝ雲ゝ稼ゝ家居ふ　移竹

竿社宗匠ゝ

菓胡日ゝ三ゝ年ゝ家の淡路島　淡ゝ

西名ゝ世ゝ張ゝ

田ゝ畦ゝ年ゝ稔ゝ畦ゝ溝ゝ竹　仝

女房ゝ児啖初ゝ

ゝ孔年ゝ米啖初ゝ麦の粉　仝

大主宗匠ゝ

孔乃白ゝ雲ゝ

家芦祝

巧婦(サイ)多芸にして能すや雪の松　仝

神祇

聖廟

玉中小祢もあまたり梅の月　宗丈

焚田踏青

梅うゑ手鼻をつゝ筋枝子　嘯壺

伊勢注樂

聲ゝとまたる鶯ゝなまるとゝ　洛ゝ

大社のもりの梅ゝ

彼岸ゝ過ぎや注ゝ初祢宋　仝

祢宜殿和布小ゝ梅や貝杓子　沾徳

無庵七夏の条祢ゝ遠く

ゝ橋沸無ゝ桑ゝ桑ゝ郷　大曽

紀氏日時家

美茅や伊勢殿日新乃多殿　洛ゝ

天満宮を納

梅咲や白くも流くも大内左　梅竹

大祢宜ゝ清く

祢の梅花ゝ言ゝ角　玉角

焚田ゝく

涼たる夫の文をゝりこと春雨　路通
白山奉納

神の松雪乃禁よりちりきて　宗更
室の八島

炷しらべくらべき文の薫り香　仝
天満宮

文と私の遠百万ますかに移船　洒々
さゝ宮

裸身に先乃涼しさゝ宮　寒川
奉納

天満宮の宮やぶして白牡丹　曉雲
登天の走宮

脇望孤白もきく神の連歌　一翁
社頭望月

踏月や一夜の松乃梢より　大尊
麻布

乙女子の清衣ふる神の石　曉雲
伊勢の宮にて

火光も孤神もぞうん月の書　宗更
ゆりうり正

田廊小汐みち来る八幡宮哉　素堂

和歌浦にて

清姫を石に成しあのの浦　宋屋

時雨やそれ元ふる鬼女の面　宋屋

住吉奥社参詣

立波や志ろくもてる夏燕　素堂

釋教

学や八角堂建たさほうけ　洛々

慈恵法寺乃殺人りうち　宝角

山中の辻堂にて

子日の梅を紀出ぬさきに　知足院

知足院にて　嘯雪

所中小橋ワけ入や知足院　宋屋

芭蕉堂にて

付なきや花の中なる義堂　仝

方延山

塔紬ぬくゝ乃紀寿水の音　洛々

晋子の祖句小坊にて

花乃影小坊を小角八幡宮　芙村

言雄

和歌所にて梅を見て出でく有明の月　廿巴村
梅を見て花ぞや今珠を掛けたるかと　仝
門さしく狂信さしゆしゆ紅梅　曉雲

寒

思ひ出の乃山吹うるる鶯の郭　仝
寒梅哀
浮橋ゝ寒も寒ん氏寒有　車蓋
寒手哀
寒ゝ鳴てやかゝん寒う寒　化良
青室恋

初やゝふゝ牡丹よりも玉寒の情　曉雲
初花ゝ寒い恋情小包ゝ初恋恋　南宗
寒竹哀
寒竹の寒ゝ色寒ゝ恋恋恋　一の鶯
寒水哀
水寒ゝ月の寒ゝ姿ゝ寒ゝ新　化良
寒雲哀
寒良園ゝ寒も情ゝ寒ゝ面　一の鶯
寒菊哀
寒ゝ寒い余ゝ寒ゝもきく新ゝ寒ゝ　仝

死なく哀る枝も葉乃移ふ　一の聖

高士意

元基〳〵と鳴きこの京鶯かな　東藍

思ひ注秋彩乃色枝下青ぶ　仝

高嶺意

亡霧露〳〵生和今小現る　仝

閑想

美酔毛金哀や哀れく云くす　大曽

哀意

新月乃中秋哀名残惜き妹うもと　苔村

孤意

ちの我樹小出くもきく意遊ぶ　漢甫

高琴意

徐意や臣雄の上乃鶴世小琴　仝

高山意

ちりく〳〵や云小吋るんもかくう　一の聖

無常

哀傷樹

目小〳〵乃紅炉乃手や夕桜　晩雲

亡母聖遠

雪焼くや骨ばかりん肉なりん　曉雲

収骨

寒肉なり目もとまるまるおたまさま　仝

沸葬後

沸車八雪はれ月夜乃なく声ぶ　鬼丸

骸骨

そてハふるふる扇ぶ骨や秋の風　素堂

骨ぶ雪ふるふるまるる夕野哉　路通

悼

亡父三十三回忌

色ちらちらきて鬢(ウナジ)ふる雪ぶ　曉雲

宰馬一周忌

花もぶ中もなれハぬるぶ　仝

琴ぶ中の菊茶ぶて

かくはるる涙も胸ぶ利ものう　仝

故貢の校合

和ぶきぶ棺ぶ扇ぶ書やる　仝

蕉尾ぶ茶ぶて

逢ぬぶみ血ぶ吐のこう敷ぶ　仝

女子成失ぶるぶ羊ぶるむ

さうを目なくもちとなるあるむ　仝
文刈ゑまうるよ

秋二日ゑなくに風もふきハふく　仝
亡妻七回忌

服しても新てもんてう魂系　家更
移竹愛惜

現をこゑうこんの月球人紛のあ　百波
四十二回忌

乙酉なあや新らあをうり月紅芳　仝
嵐雪祥忌

生集ゑ涙しるふ十夜紫苑　仝
仙霧追善

昂いゑ今をもまを新仏　仝
遠忌

桃柳ゑ変孫乃芝うる　淡〻
生角一周忌

一年新深十紫苑一春の水　仝
才磨り娘ゑまうるよ

家氏新く一春もとゑん竹の家　仝
亡母三回忌

並節社今相並し羽搔鳥　大魯

六ッになる子幾先へ立てて

此てさん秋の暮六ッ云ふなり　仝

母身まかりけるに

身に取て更衣しき卯月かな　支角

亡人の髭さへなし秋の暮　仝

妻にをくれける人に

彼帖にのこしぬ母の袂の衣　嘯山

亡妻

まほろし小瘦顔見えて梅かな　標良

亡父乃続えしまし魂祭り　仝

東山乃身まかりけるに

名にやふさの秋さへ暮れぬ　兜寿

同妻悼

萩が葉にうとく余東風更乃砧

寒まり入月親つまて涙かな

居らぬ人の妻乃枕辺乃音

しら露は東とハ秋とハ今しも悲　仝

支角母悼

眉ぬらしきみをさし向ふ乃杜若　沾徳

[illegible]悼

[illegible]ふ二[illegible]ける　東山

[illegible]失く

[illegible]の遺[illegible]ん　仝

悼

かなしてはなくめとなやみる　素堂

母の[illegible]る帰山[illegible]

親[illegible]ぬ[illegible]年[illegible]　路通

[illegible]別[illegible]

竹[illegible]連[illegible]　天壒

遠喜

かきうなくこゑ[illegible]と呼ぶ　文九

六月三日相國信[illegible]二百年[illegible]

[illegible]の[illegible]尾張[illegible]徳見禅[illegible]

小[illegible]供養[illegible]

[illegible]乃沛法[illegible]雷[illegible]　曦堂

[illegible]二十三回忌

稱盆[illegible]　莽村

述懷　懷旧

[illegible]七十年懷古

夕顔はたそかれ人の通りむすぶ　几董

夕顔の棚少ふく

世塚を柳家ふくてもなつかれし　鬼貫

福尔ふる

菜畑乃こてゝ花とゝ桜かな　素堂

元政上人の跡を尋ぬ

京なつかしく行ふるさき　秋乃家　燈外

野田の藤なと茶いいあつふも

みしかくて花もおかし四月の蔓　補天

紅波女も久しく花名し野田藤　燈外

宗長の墓まて

ふるく山三月まゝの石乃苔　治德

元政上人の旧跡

月雪千竹二竿をうる　太昔

懷旧

牡丹杉しゝ父乃恩うなりし花　全

述懷

穂すゝも出ぬ雲まも遠き本織ふる　淡し

徐来も尤くて雲ねの横ぶ　全

雪も来て咲やり年の相乃苔　全

懐古

大なはやゝふるまほろし小夏の雲　曉雲

木ゝ社古城

水ハ日ハ西ニ落ちて秋乃夢　仝

足柄城の古さ

秋原し松をむすび我冬足樹　仝

堂塔の塔ふく

逝し社音やゝ天人の涙生かな　仝

菓日楚大津旧教

くゝの菓ゝ社世乃教めこゝ冬　仝

双の器ゝて

花と我と家と樹乃新二人　仝

刺髮

刺髮ゝ水髮ゝ高社ゝく思ふ　宗吏

馬ゝ面ゝ刺髮二本樹ふく

從ゝ申ゝ楢を悔乃小川ゝ香　芝村

刺髮ゝる髮やゝれゝも父の高　一音

丈芝ゝ絵髮ゝ

髮乃長ゝ毛ハ涙ゝ社涙ゝ香　曉雲

病中之作

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

淡々　素行

大曽　樗良

東山

讃

柳よ蕪の画ぞ

花の時さまざまに来るさう夕蕉　曉雲

垂下素福孫妻よ

杖も捨てこゝや蓮華峯山居人　仝

竹よ本象の画ぞ

つくづくと何おもふ竹の月　仝

馬乃絲

新蔡素鉛八吉野すゑ康川　治德

糸桜の画よ

[illegible]　芭村

小町の讃

[illegible]　泉量

[illegible]

讃[illegible]八仕官縣令の

地に栄利をもとめんとうかれ
居て泥中に沈んとする

鶴亀や書低も志ゝ山清秀　蕉村

梅花大笑人渡

赤うてよ赤うてよ赤まくまくや牡丹　仝

武者絵賛

御所柿よりまさる紅の栗山の栗　仝

九山の黒き友をたづねる

乙り君の宿ゝ乳ゝ乗まの秋　仝

奥の画ゝ

かなをくゝと我をとをめきゝ秋の風　樗良

きあう少をふき散る画ゝ

小師の岩白ふ火桶の穴女ゝ　蕉村

問答

何ゝ法士もとゝて

古庭ゝ茶釜咲椿ゝ　仝

嘯ふ玉ゝ伏ゝ嗚呼ゝ極ゝ我

訪ひゝく

黄梅林茂出ゝく晴曉時の横人　仝

雅因ゝ雨我語ふ

山風に吉野きき寒し梅もと　莨村

入門の雑色二十出るよ

たそかれの敲く花をなし　嘯雲

笠菴禅坊の庭梅を賞て

水出し炉の中に寒し梅　稀竹

浪花の一本真を訪られく

梅ゆゑに吹風に吉野哉　莨村

陸奥の東夷よ芭蕉たられく

芭蕉陸もの梅さかきよ凡たるとき　仝

一書生の雨夜訪ふ

学問をたのしむ人のあるを宮うる　仝

行ふ人乃芭蕉ふ花く

切もとられし牡丹哉めるるとぶ　屠蘇

幻住菴に嘯雲の孫麻を訪ひく

訪ひく

九条の梅よむし哉青少人　莨村

東山に有一書生也

風雪とふとん引あり保麻うる　仝

西坡菴成訪く

おそろしき庭や花ゆく中今ろ　宗文

一至亭再會

氷柱なき彩よふるさとし入ゝかゝる　宗吏

春雪の笠底を叩て

宝くゝもも戸さゝる菴乃松の月　仝

餞別　為別

御下清風千まゝ東園乃ゝゝ

葛坡名残携ゝ車茗荷送る

ゆゝくゝまんすゝとゝ二の雲　仝

為の二句

ゝきれくゝん魂玄千深まて　仝

ほゝゝもなゝく又陽と来ん孫生山　仝

教貢都ゝゝゝゝく

芝城路ゝく岩の角なゝ　鉢荒山　曉雲

為ゝ

世ゝゝ山ゝき紙く孫　愚し　仝

あゝ人の赤乃城遠ゝ

元木ゝと徐ゝ陵乃逆楊　仝

北混東武ゝ帰ゝ城遠ゝ

芝翁や一ゝるゝも名城ゝりの山　淡ゝ

錢ゝ

汐干のきりぶ原川を舟るゝ人　素堂

蓮の葉御を送りて

ひかるゝ小車とりゝ人茶の湯縁　仝

恭宣の東武を為を送る

嵯峨をしいさ先とも都も　苔村

題別

時雨花の蕪遊を什り残　樗良

雲程坊平橋を送る

みしか夜や六里の松を更ふけ　苔村

東武の人を大津の歌を送る

紅葉や一ツ残りの賀の松　仝

題別四句

風茅ぶく宮ゝ森ゝ人　笑文

名残をしく程もよし田成生る時　仝

蓼を喜きを極彼ら時を見ん　仝

使を去月ゝ二月の夜　石　仝

錢別

そゝの涼しさ若ゝ東風　東山

ほゝゝ丈数隅ゝ志のゝれ

さゝ小や生家成生ふとく

巨燈山くるやまぶこえの野川ぶ　蕪村

友人を別る

本堂跡にて鳴き年もくれ秋暮　仝

当麻二句

駕籠(モノ)乗て立日も遅し雪の山　宗文

語るとはらぬ朝戸出や紀山迄ぶ　仝

紀行

川中島

川島や茅葺くろ小舟　仝

宇都乃山

川越一日春雨ふりつる名月　曉雲

能麻峠八伊勢と紀ふさふ

雲の上下滝すてゝ白雨横　仝

仮見表乃里城陽を波し有山

遠ゝ山色ゝ妹なり背なり

きをてゝ山色ゝて

山雨ふる森ふる中城ゝ野川　仝

木の陰より鹿田小ゝ

得身ゝ春日毛宗ゝ　永子花　燈外

横ゝ宗政乃ゝ波ゝ　文九

西行谷ふるく

雲深乃宮ゝ杉ゝ川苔の秋　素阿

文亀三年

花は葉も松ゝ青ゝふかゝ〳〵ふ　保重

湖上の冷

霞澄くゝらの浦ゝ〳〵ふ　曉雲

伏水桃山ふるく

桃つゝく花ゝ所水ゝ　仝

住ゝ小ふく

春風ゝ白ゝ松の中　末山

雲深ふるゝ

春ゝ伏見ゝ住ゝ居　田福

儿童とつきの渡ゝ花ひて

筋遠ゝ蕨ゝ蕨ゝ　芝村

笠ゝ思ふ〳〵ゝ谷の花ゝ

宿原ゝ弥ゝ弥ゝ　宗夏

ゝの川

橋ゝ人ゝ先ゝ　甫尺

ゝみ山

ゝゝ　萬ゝ

ゆく野人く一生をよ勢すまし　東湖
三芳野や雲ふく浪く天乃糸　稲竹
二日人く吟さ乃花のゆく野山　九董

芳野山是花芳野水是花と吟る

乙姫の白手ゆくく
咲みちて雲ゆ中ゆく芳野山　左董

笠根山越乃松の友ふヤ雪

四ツ手ゆたゆたゆ八重ゆ花ゆくまゝ　芭村

月塚ゆく
月塚や明ゆくしゆくと遠白す　曉雲

本堂を祭く
夕立ゆ後乃涼し　淺乃山　素堂

流石ゆ出く
何きほのゆ雲原ゆ脱く橋の下　仝

江の島弁天
島涼し志ほゆ合ゆく人の月　膳竹

方延の吟
涼しさや雲さ乃人ふ二乃書　淺く

石ゆ乃ゆの乃ゆ
雲ゆ雲乃ゆ乃ゆ乃ゆ入ゆ乃月山　宗文

上総望陵

拙乃徒手稽書つゝむ夕ゝ哉　曉雲

玉はゝ為

ゆくゝき秋よりかゝゝ樹ゝ那　三雄

より田

ゝゝゝくゝゝ田通ゝ八二階ゝゝ　鬼世

鳥沛茶今ゝ八冷ゝゝ石乃孔　仝

宿貸ゝ刀なりけ出ゝ吸書ゝ　茨村

旅ゝの苦

栗仮ゝまゝ八似ゝゝ女郎花　秋水

たゝゝゝゝや行伯ゝゝても花世ゝ　風水

行路花ゝ秋ゝ

交ゝゝ松ゝんゝゝ秋きゝゝひ　大昔

妙義山ゝゝ

ゝしゝゝゝ峰のゝゝゝ吹ゝゝ　曉雲

良表咬中ゝ生大峯

言根ゝゝくゝゝ行月秋光ゝ　仝

隅田川

日ゝゝ表ゝゝ秋ゝゝゝ移ゝ　仝

妙義山

[illegible]
衣う時うく　　宗文

かくのごとき御ぬしの波のふこ　　仝

一本岩又は天の花とよむ

[illegible]天乃柱敬を本立　　仝

世[illegible]

朱雀門をうりとく

襲[illegible]敬の[illegible]九条ぶ　　仝

日光山にて

日表を日うつもてうつ居る　　仝

[illegible]

[illegible]　　仝

天のうしを

橋立やすみなく八波紙ん　　仝

送る

張ハさて古小外日もたのもしい　　仝

新の図

新乃国美ぶき橋とんて表ぶ　　曉雲

東武小宰[illegible]方罪[illegible]ふと学て

孔乃[illegible]百年八歳[illegible]　　仝

松風を四十まとれてを騒うるかな　宗瓦

きよらかくと岩を八潮を大井川　仝

方処七面

月花に神も数ひる面うち　宗文

上の源訪

しりもちやうやうに花の神の数　仝

雑くさ

生死涅槃

なるべくに人をくるる涅槃かな　烽外

禅林

ふるさとのうすはあるかよあるかなる　宗文

蓑中の吟

春雨や物書ぬ身にあるれなる　英村

時雨のすそむ

丈山の口か過てうゆふ涼を　仝

まこのよるなるまく

ロ沈中能くて敵ある春をとる　仝

蓑坊物

蓑虫の中やのしたく春をとる　呂波

二軒茶屋にて

つま櫛もさいかたまりやまもれを淋し
寺荒すゆゑしり蕙す荒すゝ荒　嘯雲

義逢晋子

新秋ゆふなゝて頃ろん月と高　淡し

杉学士蒙勢

高くと田畑ましき小苗をうる　仝

玉泉禅院乗拂之時

風うまかゝ寺荒れ枯尾花　仝

佛骨表

志ゝゝくハ隅城ゆゝと韓退之　千角

夫婦

淋ゝゝ紀先妻生ぬ日もたのゝれや　仝

隆達の月夜高砂文化十

秋ハゝの月夜高ハ川もなく　兎毛

人見竹洞ゝ泳ゝ

屋敷ゝゝ山ゝ載うゑ　常　壁水

ゝゝ荒れ荒れて

屋敷すゝ荒れも月ゝ夕涼ゝ　芝兎薩

深芳

つゝゝ乞ゝゝ山も影ゝ　仝

四文

[illegible]　一の松屋

[illegible]　左女牛

拍子名

臼杵薪水

[illegible]　一の松屋

温飩蕎麦焼餅

[illegible]　仝

俳諧発句題林集雑之部　終